

令和3年度
和歌山県CSマイスターミニ座談会（東牟婁会場②）まとめ

日 時：令和4年1月26日（水）10:00～12:00

開催方法：オンライン開催

テーマ：「コミュニティ・スクールは宝の山！」

～すべての子供が輝くCSをめざして～

対談：「CSマイスター 裕美子の部屋」

文部科学省CSマイスター 大谷 裕美子 氏（県CSマイスター）

串本町統括コーディネーター 森 博司 氏（県CSマイスター）

交流会：グループ交流：私の町の宝もの＆マイスターに聞いてみたいこと

全体交流：CSマイスターに聞いてみよう！ ～グループ交流を受けて～

テーマ：きのくにコミュニティスクールは宝の山！
～すべての子供が輝くCSをめざして～

CSマイスター
裕美子の部屋

スーパーバイザー
大谷 裕美子 氏
文部科学省CSマイスター

ゲスト
森 博司 氏
串本町統括コーディネーター

60：国・県全体の動向

60：学校・地域の実践



大谷マイスターから森マイスターへ

これまでの取組を踏まえての自己紹介と、和歌山県の共育コミュニティとコミュニティ・スクール（CS）導入について、串本町を事例にご紹介ください。



私は、38歳の時に**派遣社会教育主事**となり、社教主事中央研修や文科の海外派遣研修、教育委員会勤務などを通して、**学校と社会教育の結びつきが重要**だと気づきました。国が初めてCSを導入した時は残念ながら研究指定校とはなりませんでした。校長として、**地域の方々を講師**に招き、文化・歴史・自然について学ぶ取組等を通して、学社連携・融合の意義を確信しました。退職してからは、**串本町統括コーディネーター**として教育委員会で勤務しています。串本町では、**各校3～5名のコーディネーターが配置**され、町内全ての学校が共育コミュニティの充実に取り組んでいます。平成29年度からはCSへと移行して現在に至っています。

森マイスターから大谷マイスターへ

和歌山県のコミュニティ・スクール(CS)の現状をどのように感じていますか。



私は、全国のさまざまなCSに関わっていますが、和歌山県は「CSへの**本気度が高い**」ということ、文部科学省CSマイスターであり、和歌山県の共育コミュニティの父でもある出口寿久氏もお話されています。本日の座談会の工夫にも見られるように「**チャンスだと思える感覚**」があり、**すぐに実行**に移せています。きのくにコミュニティスクールは「**電動自転車**」に例えられます。乗っているのは地域の未来を担う**子供たち**です。また、数字で表せないものを表せるのがCSでもあります。



大谷マイスターから森マイスターへ

コーディネーターの役割についてお話をいただけますか。



コーディネーターの役割で**特徴的だったのは、串本西小中学校区の3名の活動**でした。共に学校運営協議会委員、元教員、地域在住という課題解決にあたって好条件が揃っていましたが、**軌道に乗るには3年**かかりました。CSにおける「体験活動」においては、この3名の方々の協力により、地域清掃・戦争体験談・キャンプ・昔遊び・高齢者交流・保育体験・地域あがての運動会の実施等に取り組みました。コーディネーターは実働部隊であり**即効薬**、学校運営協議会は**漢方薬**のようなものだと考えています。課題解決への大きな方向性は、学校運営協議会で熟議し、それを実現するための具体的な行動は**学校とコーディネーターが協働すること**が大切だと思います。

森マイスターから大谷マイスターへ

地域や保護者からCSに寄せられる期待についてお聞かせください。



CSの良さは、「地域の子供が、地域の人に知ってもらえること」です。**キーワードは「知る」**です。子供を知ってくれる大人が増えると、声をかけたり、名前を呼んでくれる人が増えます。そのことが学校や地域の教育力の高まりにつながります。子供を真ん中に、大人である学校・地域・保護者がチームになり協働すること。そして、「**〇〇できる子になってほしい**」という名詞から「**〇〇できる子にするために〇〇していく**」という動詞へと転換すること。スクラップ&ビルド、また不易と流行という言葉もありますが、これまでの積み重ねを大切にしつつ、取組を見直したり、**コロナ禍だからできること**を考えたいですね。また、**コーディネーター同士のつながりを作る仕組み**も必要ではないかと思います。

大谷マイスターから森マイスターへ

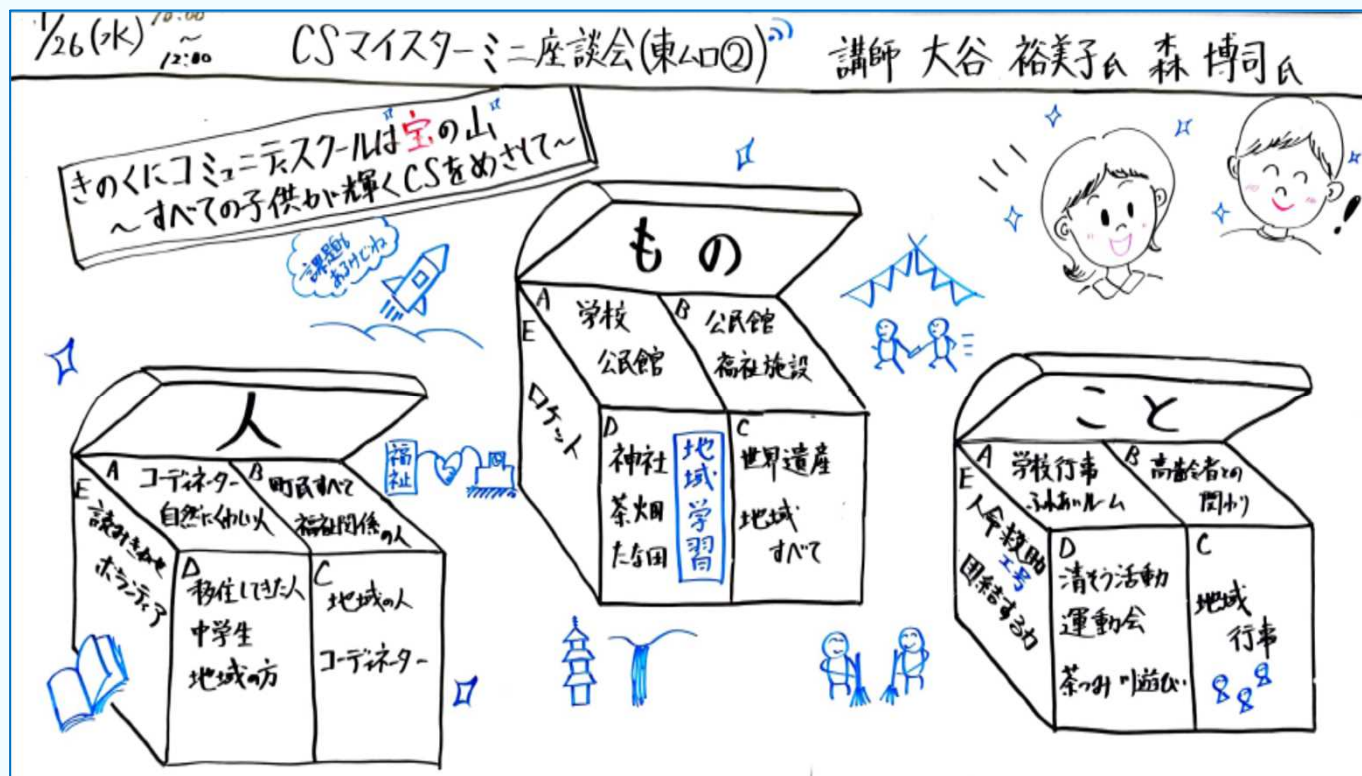
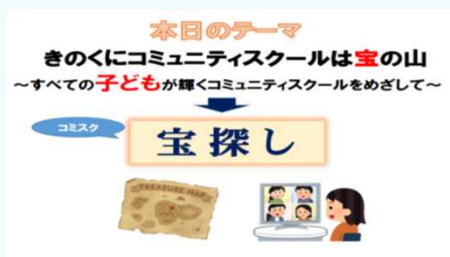
CSの充実に向けて、メッセージをお願いします。



CSの取組は「**人づくり**」の活動だと思います。それぞれの学校・地域・市町村において、課題や置かれている現状に違いがあるので、活動内容が同じというわけにはいきませんが、**CSというシステムを活用**して、周りの大人がその**地域に見合った関わり**を続けていくことが必要です。また、かつては地域にあった教育的風土を、CSを活用して現在に合う形で**再構築**することが大切です。そして、子供たちが、「**この地域で育って良かったと思い、地域社会を支えようとする意欲を持ち、ふるさとの未来を託せる。**」大人へと成長してほしいと思っています。

グループ交流

きのくにコミュニティスクールに取り入れたい宝
「人・もの・こと」&コミスクの困りごと



大谷&森マイスターに聞いてみよう ～グループ交流を受けて～

A C

グループ

Q：特別支援学校や高等学校における地域の捉え方は？



A：2通り考えられます。1つ目は、**子供たちが生活している場所**です。2つ目は**学校所在地**です。紀伊コスモス支援学校では、学校の所在地を地域と捉えて、さまざまな取組を進めているので、参考になるのではないのでしょうか。小中学校の子供達は、すでに**自分たちの住んでいる地域について学んでいる**ので、特別支援学校や高等学校では、まずは学校の存在している周辺を地域と捉える方が取組を進めていきやすいように思います。

〈参考〉

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500600/communityschool_d/fil/highschool_leaflet.pdf

B

グループ

Q：コーディネーターは、どのような方がふさわしいといえますか？



A：まずは、**学校運営協議会委員**の中からはなっていた方がいいと思います。コーディネーターの役割は、大変重要でボリュームがあります。そのため、学校と地域の**両方の視点**を持っており、双方のクッションになってくださるような方が望ましいのではないのでしょうか。**遠慮無くなんでも言える**ような方であることも大切でしょう。

D

グループ

Q：学校がない地域で、学校と地域がつながりを持つための特効薬はありますか？



A：学校でその地域と関わるための**材料を見つける**ことです。例えば、串本町の和深地域では、生き物の生態調査で、冬眠しない「やまね」の存在が確認されています。本州の最南端で、冬眠しない「やまね」が発見されたことはすごいことです。そのような**「地域についての材料」を見つける目や視点をコーディネーターさん、管理職、教員**が持つと良いでしょう。

E

グループ

Q：コミュニティ・スクールに関わる人材の仕方方や育て方について教えてください。



A：今、関わってくださっている方々を大切にしましょう。**キーワードは自尊感情**です。基本的に地域のことは地域にお任せする姿勢が大切でしょう。最初は参加者だった人が、後で動いてくださる側になられることもあります。また、CSに関する研修や講座などの**学びから始める**のも一つです。もちろん、なっていただく方の**お人柄**も大切でしょう。

参加者の感想

・大谷マイスター、森マイスターのお話、大変参考になるものばかりでした。お二人の対談形式のお話が大変聞きやすく、大谷マイスターの総論的なお話と森マイスターの事例を交えてのお話が合わさり、すごく具体的にイメージできるお話でした。大谷マイスターの「コミュニティ・スクールを名詞から動詞へ」というお話では、私自身が組織をどうしていけば、どのように運営していけばといったところに主眼を置いてしまっているところがあったことに気付かされ、何をしていくのかということに関わる方々で考えていけばいいのだなと肩の力が抜けると共に楽しみにもなってきました。本日はコロナ禍の中、開催方法を工夫し、このような学びの場を提供していただけたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

・コミュニティ・スクールという言葉も初めて知り、また学校関係の方々と地域の皆さんの活動を知ることができて勉強になりました。貴重な話を伺えてよかったです。

・本日は、研修会の運営ありがとうございました。本校の学校運営協議会委員(コーディネーター)であるお二人も大変楽しい2時間だったと感想を述べられていました。私自身もとても勉強になったと思っております。ありがとうございました。本日の感想ではないのですが、コーディネーターのお二人から、コーディネーターの年齢も上がってくるため、次のコーディネーターをどなたにお願いするのか、どうつないでいくのかが課題だと言われました。もちろん学校でも考えていかなければいけないことだけれども、どのようにつないでいくのか、また他の地域はどうしているのか等ご意見やご指導がいただけたら良いなあというご意見もいただきました。

・ありがとうございました。学校の状況や現場の状況がわかり、情報収集できてよかったです。

・このたびは研修へのお誘いありがとうございました。わたしがZOOM参加した場所は那智勝浦町南大居にある「太田の郷」からでした。これからも、教育×福祉の実践を頑張っていきたいと思います。一緒にお話させていただきありがとうございました。貴重な時間でした。

次頁へ続く

参加者の感想（前頁からの続き）

・和歌山県CSマイスターミニ座談会に出席させていただき、学校教育と社会教育との融合の重要性をあらためて感じました。そのため、学校だけではなく地域の方々にも力を貸していただくコミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民の方々が参画できる仕組みだと感じました。この仕組みを活かして子どもたちに生きる力だけでなく、学力はもちろんのこと考える力、判断する力というようなさまざまな力を育んでいければと思いました。CSマイスターさんの対談も学校運営協議会を運営するにあたり、大変参考になりました。また、いろんな地域の方々との交流会は、さまざまな地域の方々がそれぞれの立場で子どもたちに関わっていることを知り、そのことが私自身の励みにもなりました。この研修から子どもの教育に対する課題や目標をさらに学校運営協議会で共有し、学校を支援する取組がさらに充実できるように、取組を進めていきたいと思います。今回、このような貴重な研修に参加させていただき、ありがとうございました。

・本日は座談会へ参加させていただきありがとうございました。大谷先生、森先生のお話は興味深く拝聴させていただきました。串本町の様々なお取組についても、学校の統廃合など、背景を伺い知ることができました。大谷先生がご活躍されている、美加の台小学校、森先生のご活躍されている串本町では、当協会（日本漢字能力検定協会）のコンテンツもご活用いただいております。市町の教育委員会様が地域学校協働活動のアシストをされている傍らで、当協会も公益財団法人として、微力ながらアシスト出来れば幸いです。ちなみに3月5日にビッグUにて開催予定のフォーラムについても参加させていただければと考えております。

・本日は研修の運営ありがとうございました。大谷マイスターさん、森マイスターさんのお話から、どのように進めていけばいいのか、今後のCSの展望を持つことができました。また、古座川町として、本校として、これまで取り組んできたことを振り返る機会となりました。グループワークでは、福祉関係の方と日本漢字能力検定協会の方と一緒できたので、学校を外側から見る視点をいただきました。今後本校において福祉関係の方に関わっていただくのも大切なことだと思いました。本日の研修で学んだことを今後に役立てていきたいと思います。



会場となる予定だった「交流センター太田の郷」